

鈴木知事が妹背牛を視察 40年続くカーリング文化を紹介

カーリングホールを視察する
鈴木知事（左から2人目）



鈴木直道北海道知事が8月4日、地域住民と懇談する「なのおみちカフェ」の一環で妹背牛町を訪れ、遊水公園つららやカーリングホールを視察しました。

「なのおみちカフェ」は、地域づくりに励む人たちとの懇談を通じて、創意工夫ある取り組みを広く発信するための地域訪問です。

鈴木知事は、滝本昇司町長の案内で遊水公園つららの遊具やウォータースライダーを視察した後、カーリングホールへ移動。子ども議会で提案されたガチャガチャを体験したほか、カーリング関係者との懇談に臨みました。

懇談には、北口信彦副町長、町カーリング協会の熊谷勝副会長、同協会少年団で活動していた安井涼音さんも参加。約40年間にわたり、町民が冬に楽しめるスポーツとしてカーリングの普及に取り組んできた歴史を伝えました。

また、子どもから高齢者まで幅広い世代が競技に親しんでいることや、地域全体でカーリング文化を支えている現状についても紹介。

懇談を終えた鈴木知事は「今日お聞きしたすばらしい活動を多くの人たちに知ってもらえるように取り組んでいきたいです」と話しました。

地域おこし協力隊通信

妹背牛町に在籍する地域おこし協力隊員の活動状況などを紹介します。

よねばやし ひろき
米林 弘樹 さん



熱波を初めて見る参加者を前に、演舞を披露する米林さん

妹背牛温泉ペベルの熱波師として活動する地域おこし協力隊の米林弘樹さんが6月、いきいき百歳体操に取り組む「三久ファミリ」の活動場所、わかち愛もせうしひろばを訪れ、熱波の演舞を披露しました。

この日は約20人が参加し、そのほとんどが熱波を見るのは初めて。米林さんは、サウナストーンに水をかけて発生した蒸気をタオルであおぎ、心地よい風を届けるドイツ発祥のパフォーマンス「アウフグース」について紹介しました。

タオルを自在に操る技の迫力や、アロマの香りによるリラククス効果など、熱波の魅力を説明。アウフグースには技術や演出を競う大会もあることを伝えると、参加者からは驚きの声が上がりました。

また、米林さんは「ペベルのサウナは、こうしたパフォーマンスができる広さも魅力」とPR。熱波を送る際には、年代などに合わせて風の強さを調整していることも伝えました。

軽快な音楽に合わせて繰り広げられるタオルさばきに、会場は笑顔に包まれ、参加者からは「元気をもらえた」「楽しくて盛り上がりた」といった声も聞かれました。

演舞終了後は、米林さんも参加者の輪に入り、一緒にいきいき百歳体操を体験。熱波をきっかけに、世代を超えた交流を楽しむひとときとなりました。